※令和４年度以降入学生用

学校番号	109

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	公共	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新版　公共　PUBLIC　（数研出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題に関する周辺知識を身に着ける→課題を理解する→課題の解決策を見出す→解決策を検証する」といった一連の過程の中で、現代の諸課題についての自分の考えを発表したり、議論したりする力を養っていきます。
・授業中のノートやプリントを書き写すことはもちろん、授業中に気づいたことやクラスメイトの発言など、積極的にメモ書きをとっていきましょう。

２　学習の到達目標

・現代の諸課題を捉え考察する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
・現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を多面的・多角的に考察し判断する力や、国際社会における日本を広く相互的な視点から捉える力を育成する。
・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第一章　公共的な空間をつくる私たち	第１節　青年期と自己形成 1 青年期の意義と課題 2 自我の確立と自己形成 第２節　人間としての自覚 1 生きることと考えること 2 世界の宗教 第３節　日本人としての自覚 1 日本の思想(仏教･儒学･国教) 2 日本の文化と西洋思想の受容	a:青年期が抱える問題や、自己形成の過程が理解できている。世界３大宗教を中心に、世界の思想を理解し、かつ日本の思想と比較することができる。 b:青年期の諸課題を解決する方法を実際の生活の中でどのように実践していくのか多面的に考察することができる。日本と外国の文化･思想の違いが社会にどのような影響を及ぼしているのかを考察することができる。 c:身近な人物を観察･調査して青年期をどのように乗り越えるのか考察することができる。身の回りで日本と外国の文化･思想の違いを調査することができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 ノート提出 ワークシート	ワークシート 振り返りシート
	第二章　公共的な空間における人間としてのあり方生き方	第１節　西洋近現代の思想 1 近代科学の考え方 2 人間の尊厳と幸福 3 現代の思想 第２節　現代の諸課題と倫理 1 地球環境をめぐる問題 2 資源･エネルギーをめぐる問題 3 生命をめぐる問題 4 情報をめぐる問題	a:先人の思想を理解し、「人間とは何か」を考えることができる。地球環境問題を中心に現代の人間が抱える諸課題を理解している。 b:先人の思想が現代の人間にどのように影響を及ぼしているのか、論理的に考察することができる。現代の諸課題をＳＤＧｓの観点から考察することができる。 c:実生活の中で現代の諸課題の解決策の仮説を設定し、検証することができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 ノート提出 ワークシート	ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

		課題学習① 「生命倫理に関するディベート」	b:ひとつの課題に対して「賛成派」，「反対派」それぞれの意見を客観的にとらえ、討論を通じて自分の意見を昇華することができる。 c：積極的に発言し、協動的に反活動を行うことができる。 課題をこなすだけでなく、自ら課題を振り返り、改善点などを考えることができる。		ワークシート	ワークシート 振り返りシート
2学期	第三章　公共的な空間における基本原理	第1節　民主社会の基本原理 1 民主政治の始まりと基本的人権の保障 2 権力分立と法の支配 3 個人と社会とのかかわり 第2節　日本社会の基本原理 1 日本国憲法と基本原理 2 平等権・自由権 3 社会権・参政権・請求権 4 新しい人権・人権の国際的広がり	a:民主政治の始まりを歴史的な経緯を踏まえ理解し、それが日本国憲法の理念にどのように活かされ、民主主義を体現しようとしているのか理解できている。 b:日本国憲法における基本的人権の保障を、裁判判例を通じて考察することができる。 c:日本国憲法には明記されていない新しい人権や、国際的な人権の広がりについて、民主主義の基本原理を応用し、身近なものとして考察することができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 ノート提出 ワークシート	ワークシート 振り返りシート
		課題学習② 「平等な多数決を考える」	b:「多数決における平等性とは何か」を様々な視点,立場から考察することができる。 c：積極的に発言し、協動的に反活動を行うことができる。 課題をこなすだけでなく、自ら課題を振り返り、改善点などを考えることができる。		ワークシート	ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	第四章　現代の民主政治と政治参加の意義	第１節　日本の政治機構 １ 国会のしくみと役割 ２ 内閣のしくみと行政機構 ３ 日本の裁判制度と人権保障 ４ 司法参加の意義 第２節　政治参加と民主政治の課題 １ 選挙と選挙制度 ２ 政党の役割 ３ 地方自治の現状と課題 ４ 世論の形成と現代民主政治の課題	a:日本の三権分立の原理、政治機構、中央政府と地方政治の関係性を理解できている。 b:日本の政治機構と諸外国の政治機構を比較し、日本の政治機構の問題点や課題を考察することができる。 c:参政権を中心に、個人ひとりひとりがどのように政治に関わり、参加していくのか政治を身近なものとして考察することができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 ノート提出 ワークシート	ワークシート 振り返りシート
		課題学習③ 「模擬裁判」	b:題材とする架空の事件について、実際の裁判における判例と比較し、他者と協働しながら根拠を持って判決を出すことができる。 c：積極的に発言し、協動的に反活動を行うことができる。 課題をこなすだけでなく、自ら課題を振り返り、改善点などを考えることができる。		ワークシート	ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	第五章　現代の経済社会と経済活動のあり方	第 1 節　経済のしくみと市場機構 1 経済生活のしくみ 2 企業の働きと役割 3 市場経済のしくみ 第 2 節　財政と金融 1 国民所得と経済成長 2 財政の役割 3 金融の役割 4 日本銀行と金融政策 第3節日本経済の発展と変化 1 日本経済のあゆみ 2 産業構造の変化と職業 3 中小企業と農業 第 4 節　豊かな生活と福祉の実現 1 経済社会とルール 2 消費者問題 3 公害対策と環境保全 4 労働者の権利 5 現代の労働問題 6 少子高齢社会における社会保障	a:需要と供給の法則を中心に、資本主義経済の仕組みや経済を活発化させるための構造，理論を理解している。 b:需要と供給の法則に基づいて市場機構や景気変動、財政，金融の仕組みの形成、戦後経済から現代経済までの歩みが論理的に展開されていることを考察できる。 c:経済の理論や考察したことを、自らの将来設計に活かし、経済を身近なものとしてとらえることができている。	定期考査 確認テスト	定期考査 ノート提出 ワークシート	ワークシート 振り返りシート
		課題学習④ 「会社作りワーク」	b:需要と供給の関係性や消費者行動心理に基づき、普段の生活の中から世の中にどのようなニーズがあるのか、主体的に考えることができる。 c：積極的に発言し、協動的に反活動を行うことができる。 課題をこなすだけでなく、自ら課題を振り返り、改善点などを考えることができる。		ワークシート	ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

3学期	第六章　国際社会の動向と日本の役割	第１節　国際政治の動向 1 国際社会と国際法 2 国際連合の成立と組織 3 国際連合の役割と課題 4 戦後の国際情勢 第２節　国際政治の課題と日本の役割 1 日本の安全保障と日米安保体制 2 軍縮への動き 3 現代の紛争 4 世界の人権問題と日本 第３節　国際経済の動向と国際協力 1 国際経済の仕組み 2 戦後の国際経済・国際貿易体制 3 経済のグローバル化と現代の国際経済 4 地域経済統合 5 南北問題とその課題 6 国際社会における日本の役割	a:国際社会の基本原理，戦後の国際関係の変化，国際経済の基本原理，国際経済のこれまでの歩みを理解している。 b:日本と諸外国を比較し、どのように国際社会を形成してきたのか、また経済的なつながりを広げてきたのか、考察することができる。 c:普段自分が食べているものなど、身近なものから外国とのつながりを意識し、自分自身が国際社会の一員であることを考えことができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 ノート提出 ワークシート	ワークシート 振り返りシート
		課題学習⑤ 「輸出入ゲーム」	b:外国為替相場の決定や、為替相場による需要供給の変化を、ゲーム参加を通じて主体的・協働的に考えることができている。 c：積極的に発言し、協動的に反活動を行うことができる。 課題をこなすだけでなく、自ら課題を振り返り、改善点などを考えることができる。		ワークシート	ワークシート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度